

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

- (1)シティズンシップ教育の実現のため、実社会に必要な国語の知識や技能
- (2)「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、探究的な見方を取り入れ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力、他者との関わりの中で伝え合う力、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力
- (3)ダイバーシティ教育の充実のため、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚、言葉を通して積極的に他者や社会への関わり、ものの見方、感じ方、考え方の深化

- (1)シティズンシップ教育の実現のため、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けた。
- (2)「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、探究的な見方を取り入れ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりした。
- (3)ダイバーシティ教育の充実のため、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしており、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。

生徒の実態

- ・主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である。
- ・学校行事やキャリア形成活動において、課題を発見し、その解決にむけて主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別の支援計画を作成するとともに、教職員間で共有を図り、教科全体で支援する。
- ・ライフスキル教育を通して、育成された能力を授業における他者との対話やグループ活動の円滑化へと活かすことができるよう指導する。

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- (1) 全ての教科の基礎となり、生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を身につける。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を身につける。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- (1)探究を軸とした、教科横断的な学びの実践
- (2)言語活動を軸にした基礎～応用的な「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の能力の育成
- (3)ICTを効果的に活用することによる「主体的・対話的で深い学び」を行う授業の推進

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

【探究を軸とした学びの推進】

- ・STEAM教育・教育DX・探究的な見方を取り入れた教科指導の充実

【キャリア形成を支援する指導体制の充実】

- ・進学希望者向け課外活動、外部模試（小論文模試）・進路希望に応じた学校設定科目の設置

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するかということが重要である。
- ・そのため、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けるといった活動を行い、その活動を通して自分の思いや考えを形成し深めることが国語科における重要な学びである。
- ・国語科において、言語活動を通して言葉による見方・考え方を働かせることが求められている。
- ・言葉による見方・考え方とは、自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることを指す

【各教科等のグランドデザイン】案

教科名 **地歴公民**

何ができるようになるか ○各教科等で育成する資質・能力

- (1)現代の諸課題を捉え考察し、概念や理論について理解するとともに、調査や諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。
- (2)現代社会の諸課題について、多面的・多角的に考察したり、解決する手立て構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
- (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に探究することができる。

何が身に付いたか ○各教科等の学習評価

- (1)現代の諸課題を捉え考察し、概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめられる力
- (2)課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりできる力
- (3)よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究できる力

生徒の実態

- ・主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、課題を発見し、その解決にむけて主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか ○配慮を必要とする子供への指導

- ・関係機関と連携しながら、多様な学習活動を通じて個に応じた指導を実施する。
- ・生徒の配慮事項に留意し、教職員間で共有を図ることで、組織的に支援する。
- ・課題解決能力といった、生きていく上で必要となる、日常の様々な問題や課題に対処するための技術を指導する。

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- (1)日本と世界の歴史や地理に関する理解を深め、国際化にも対応できる力の育成を目指した、探究を軸とした授業実践
- (2)現代社会でより良く生きるために必要な基礎学力ならびに思考力・判断力・表現力の向上を図る教育課程の編成
- (3)現代の諸課題について問題意識をもち、主体的に社会参画し得る公民としての資質を養う

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- (1)探究を軸とした、科目横断的な学びの実践
- (2)ICTを効果的に活用することによる「主体的・対話的で深い学び」を行う授業の推進（個別最適な学び・協働的な学び）
- (3)多様なメディアを主体的に活用することを通じ、現代の諸課題についての関心を高め、課題解を目指す話し合い活動の実施

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- ・STEAM教育 ・教育DX ・シティズンシップ教育 ・ダイバーシティ教育 ・ライフスキル教育 ・主権者教育
- ・進学希望者向け課外活動、外部模擬試験

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- 課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする。
- ・「地理的な見方・考え方」…社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて働かせるもの。
 - ・「歴史的な見方・考え方」…社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事実同士を因果関係などで関連付けたりして働かせるもの。
 - ・「人間と社会の在り方(公民)についての見方・考え方」…社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせるもの。

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

数 学

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

- ・ 基本的な知識の習得と技能の習得を図り、自らの学習を調整しながら学習に取り組むことができる
- ・ 数学と社会生活のかかわりや数学的な表現の工夫について認識を深めようとすることができる

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

- ・ 基本的な知識の習得と技能の習得を図り、自らの学習を調整しながら学習に取り組むことができる能力
- ・ 数学と社会生活のかかわりや数学的な表現の工夫について認識を深めようとすることができる能力

生徒の実態

- ・ 主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である
- ・ 学校行事やキャリア形成活動において、課題を発見し、その解決にむけて主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子供への指導

- ・ 少人数指導によるきめ細やかな指導。
- ・ 単元テスト等を利用し理解度の把握、学習支援に努める。
- ・ 課外活動等を活用し、学習の深化を図る。

目指す生徒の姿

- ・ 教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・ グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- (1) 数学の基本概念や原理を体系的に理解し、事象を数学的に表現・解釈・処理する技能を習得する。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察し、その本質や他の事象との関係を統合的に理解し、簡潔かつ明確に表現する力を養う
- (3) 数学の良さを認識し、積極的に活用する態度や、粘り強く数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返り考察・改善する姿勢と創造性の基礎を養う。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- (1) 探究を軸とした、教科横断的な学びの実践
- (2) 単元テストを活用した学習の調整する能力の育成
- (3) ICTを効果的に活用することによる「主体的・対話的で深い学び」を行う授業の推進

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

【探究を軸とした学び】

・ STREAM 教育 ・ 教育 DX ・ 探究的な活動を取り入れた教科指導の充実

【キャリア形成を支援する指導体制の充実】

・ 進学希望者向けの課外活動・外部模試・進路希望に応じた学校設定科目の設置

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・ 数学の論理や体系に関心をもち、数学の良さを認識しそれらを事象の考察に積極的に活用しようとする
- ・ 事象を数学的に考察し、表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすること
- ・ 論理的に事象を考察し、調整しながら学習を進めていこうとする

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

理科

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することを通して、グローバルな視野で思考・表現・判断できる
- (3) 自ら課題を発見し、自然の事物・現象に主体的に関わり、協働しながら科学的に探究しようとすることができる

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- (1) 自然の事物・現象についての知識と、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することを通して、グローバルな視野で思考・表現・判断する力
- (3) 自ら課題を発見し、自然の事物・現象に主体的に関わり、協働しながら科学的に探究しようとする態度

生徒の実態

- ・主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、主体的に課題を発見し、その解決にむけて活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・個別の声掛けや、双方向支援ツールを利用した個に応じた指導
- ・配慮事項の正確な把握や、適切な環境の整備
- ・個別の教育支援計画や、教職員連携の組織的な支援

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- ・身近な物理現象やエネルギーに関する科学的な探究を軸として、技術開発やエネルギー問題についてグローバルな視野で学ぶ
- ・物質とその変化に関する科学的な探究を軸として、産業を支える資源や物質の利用についてグローバルな視野で学ぶ
- ・生物や生物現象に関する科学的な探究を軸として、生命の尊重や自然環境の保全についてグローバルな視野で学ぶ
- ・地球や地球を取り巻く環境などに関する科学的な探究を軸として、環境問題や災害対策についてグローバルな視野で学ぶ

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- ・探究を軸とした、教科横断的な学びの実践
- ・ICT を効果的に活用することによる主体的・対話的で深い学びを行う授業の推進
- ・学校活動全体で取り組むシティズンシップ教育の基盤となる授業の充実
- ・資料学習や観察、実験を通じた科学的に探究する授業の充実
- ・自ら課題を発見し、協働的に解決する学びの充実

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- ・STEAM 教育
- ・ICT 機器の利用
- ・教科内研修
- ・大学等の講座への参加
- ・教育 DX
- ・外部施設や組織との連携
- ・学級担任との連携
- ・総合的な探究の時間との連動

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの、科学的に探究する方法を用いて考えること
 - ・「エネルギー」を柱とする領域：自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉えること
 - ・「粒子」を柱とする領域：自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉えること
 - ・「生命」を柱とする領域：生命に関する自然の事物・現象を主として共通性・多様性の視点で捉えること
 - ・「地球」を柱とする領域：地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉えること

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

保健体育

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

- (1) 生涯を通して自己や家族の健康について、自ら課題を発見し協働しながら、管理・改善しようとする態度の育成
- (2) 他者と協働しながら、生涯にわたって運動に親しむと共に健康の保持増進と体力の向上を目指し、主体的な学び
- (3) 各種運動の多様性を受容し、自己の課題を発見し協働しながら多様な楽しみ方や各々の能力を最大限に生かした学び

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

- (1) 生涯を通して自己や家族の健康について、自ら課題を発見し協働しながら、管理・改善しようとする態度を育成する力
- (2) 他者と協働しながら、生涯にわたって運動に親しむと共に健康の保持増進と体力の向上を目指し、主体的に学ぶ力
- (3) 各種運動の多様性を受容し、自己の課題を発見し協働しながら多様な楽しみ方や各々の能力を最大限に生かして学び合うことができる資質・能力

生徒の実態

- ・主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、課題を発見し、その解決にむけて主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子供への指導

- ・視覚教材などを使って、文字だけでなく見て理解できる環境を作る。
- ・学習カードなどを活用して、授業内での見通しをもたせる。
- ・運動強度に合わせてグループ活動を行う。

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- (1) 生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現
- (2) 健康教育を通して健康の保持増進
- (3) 各種運動の多様性を受容

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- (1) 探求を軸とした、教科横断的な学びの実践
- (2) ICT の効果的活用により、主体的・対話的で深い学びを行う授業の推進
- (3) 健康教育を軸とした心身の健康の保持増進と健康課題について対話的・協働的で深い学びの実践

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- ・教科内研修により、教師の指導力向上
- ・部活動や地域との連携
- ・ICT 機器、教材・教具の充実

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・体育の見方・考え方：生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえる。
- ・保健の見方・考え方：疾病や傷害を防止し健康の保持増進図り、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえる。

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

芸術

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- (1) 芸術の表現や鑑賞について豊かな知識を持ち、作品を意図に基づいて効果的に表現できる。
- (2) 作品等の表現形式や価値について、自ら課題を見いだし協働しながら、創造的に考えたり、表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを味わったりすることができる。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情と、心豊かな生活や社会を創造していかうとする資質・能力を身に付ける
- (4) 日本及び諸外国の作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じとり、グローバルな視野で、それぞれの国の芸術のよさや美しさについて、考え、表現することができる

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- (1) 芸術の表現や鑑賞について豊かな知識を持ち、作品を意図に基づいて効果的に表現できる技能
- (2) 作品等の表現形式や価値について、自ら課題を見いだし協働しながら、創造的に考えたり、表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを味わったりすることができる力
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情と、心豊かな生活や社会を創造していかうとする資質・能力
- (4) 日本及び諸外国の作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じとり、グローバルな視野で、それぞれの国の芸術のよさや美しさについて、考え、表現することができる力

生徒の実態

- ・主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、課題を発見し、その解決にむけて主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・個別の声掛けや、個に応じた授業の柔軟な対応
- ・配慮事項の正確な把握や、適切な環境の整備
- ・個別の教育支援計画や、教職員の組織的な連携

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- ・芸術の基本的な表現や鑑賞の方法
- ・校歌的に表現する技能
- ・作品や文化遺産などから学ぶ美意識や創造性
- ・作品鑑賞をととした、それぞれの国の芸術のよさや美しさ

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- ・基礎から発展につなげることが学びの体系化(ICTを効果的に活用した個別最適な学びの実践)
- ・課題を見いだし、よりよい創造的な表現を考えながら行う作品制作
- ・発表や教え合いをととした、対話的・協働的で深い学びの実践
- ・美意識や創造性を感じたり、文化的背景や多様性を受容しながら行う、作品や文化遺産などの鑑賞

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- ・ICT機器の利用
- ・教科内研修
- ・外部の施設や組織との連携
- ・学級担任との連携

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- 芸術の各教科において、表現と鑑賞の探究的な活動をととして、作品の見方・考え方を深め、心豊かな社会を創造する態度と、芸術文化に親しむ豊かな情操を培う
- ・【音楽】 音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや音楽の文化的・歴史的背景などと関連付ける力を育成する
- ・【美術】 課題ごとに作品制作という形で解答する 調査研究 アイディアスケッチの準備をととして制作プロセスを身につける 作品を読み解く能力の育成を図る
- ・【書道】 漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の表現や鑑賞の探究をととして、書の良さや美しさを捉え、東洋の伝統文化の現代的意義と、世界の中での効用を考える

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

英語科

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

R：英検２級から準１級レベルの初見の文章を読んで理解できる。
L：英検２級から準１級レベルの文章を聞いて概要を理解できる。様々な場面で多様な英語を聞いて必要な情報を得ることができる。
W：社会問題など与えられたテーマについて、意見を論理的に整理し、ふさわしい表現、多様な文のパターンを使用して書くことができる。
S (Production)：社会的な課題について、相手に伝わるようにプレゼンテーションができる。
S (Interaction)：即興で自分の意見を理由とその根拠を示しながら説明できる。質疑応答や論理的な反論ができる。また、それぞれの領域の力を統合的に用いて論理的に考え、思いや考えを伝えあって、探究的に深めたりできる。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

R：英検２級から準１級レベルの初見の文章を読んで理解できる力。
L：英検２級から準１級レベルの文章を聞いて概要を理解できる力。様々な場面で多様な英語を聞いて必要な情報を得る力。
W：社会問題など与えられたテーマについて、意見を論理的に整理し、ふさわしい表現、多様な文のパターンを使用して書くことができる能力。
S (Production)：社会的な課題について、相手に伝わるようにプレゼンテーションする力。
S (Interaction)：即興で自分の意見を理由とその根拠を示しながら説明する能力。質疑応答や論理的な反論をすることができる資質・能力。また、それぞれの領域の力を統合的に用いて論理的に考え、思いや考えを伝えあって、探究的に深めたりすることができる力。

生徒の実態

- ・主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、課題を発見し、その解決にむけて主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別の支援計画を作成するとともに、教職員間で共有を図り、教科全体で支援する。

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- (1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。
- (2) 目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について英語で理解したり、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- (1) 実際の使用場面を意識して、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きについて学ぶ。
- (2) 学んだ英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを活用し、自らの「思考力・判断力・表現力」を用いて言語活動を行う。
- (3) 英語学習を通じて、様々な文化や「見方・考え方」について理解を深めつつ、自らの考えや自国の文化を英語で表現する。

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

【探究的な思考力を伸ばす指導】

効果的な言語活動や ALT 活用

教科内及び校外研修

パフォーマンステストの実施

【学びの個別最適化】

進路希望に応じた課外

検定や資格取得の支援

ICT の効果的な活用

【主体的・継続的な学びの環境構築】

学校設定科目の設置

コンテスト等の支援

外部団体との連携

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・言語はそれ自体に、話者集団が文化的・歴史的に培ってきた視点や思考を含むので、外国語を学び、その言語を用いて考え、表現することで、一つの物事を異なる視点、思考からより深く知ることができる。英語学習を通して異なる視点を獲得し、社会や世界、他者との関わりに着目して物事を捉えることで、太田一高が目指す「グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくり」に必要な、協働性や相互理解が高めてほしい。
- ・母語でない英語を使って、様々な国の異なる文化を持つ人とコミュニケーションすることにより、必然的に互いを理解しようという意識が高まる。ダイバーシティを尊重する太田一高では、英語でコミュニケーションを行う活動を多く取り入れて、実際のコミュニケーションで、相手に配慮し、目的や場面、状況などに応じて適切に活かせることを目指している。

【各教科等のグランドデザイン】

教科名 **家庭科**

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

- (1) 家庭や地域の生活上の課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる。
- (2) 生活の充実向上を図り、主体的に学び続ける資質・能力を身に付ける。
- (3) 家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、現代の家庭生活における多様性を理解し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる。

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

- (1) 家庭や地域の生活上の課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力
- (2) 生活の充実向上を図り、主体的に学び続ける資質・能力
- (3) 家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、現代の家庭生活における多様性を理解し、グローバルな視野で思考・判断できる力

生徒の実態

- ・主体的で探究的な学びを意識した授業を実感している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、課題を発見し、その解決にむけて主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子供への指導

- ・必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別の支援計画を作成し、教職員間での共有を図りながら支援する。
- ・多様な生徒のニーズに寄り添ったチームでの実習指導にあたる体制作り

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 家庭科の学習を通して、生活における問題解決能力と主体性を身に付けたことが実感できる。
- ・日常生活で求められる基礎的な家庭科の技術と協働的に学び力を身に付ける。
 - ・現代の家庭生活における多様性への理解を深めるとともに、広い視野で思考力や判断力・表現力を身に付ける。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- ホームプロジェクト活動の発表を通した主体的で対話的な学びの実践と記録の徹底
- ・ICT を効果的に活用することによる「主体的・対話的で深い学び」の実践
 - ・調理や被服の実習を通して基礎的な技術と協働的に学び力の育成
 - ・言語活動を通した多様化への理解できる力と自己表現できる力の育成

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

・実習助手との連携 ・伝統校の強みを生かした地域との密接な連携 ・教科・単元横断指導 ・附属中家庭科との連携 ・先進的な ICT の活用

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

家庭基礎の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、自己の在り方と生き方を考えながら、課題を発見し、解決できる資質能力の育成を目指す。

- (1) 家庭基礎の時間において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、主体的に分析しまとめ表現までができるようにする。
- (2) ホームプロジェクトを通した探究活動へ主体的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を表現しようとする態度を養う。